

国内の畜産物の需給動向

牛肉

6年1月の牛肉生産量、前年同月比2.5%増

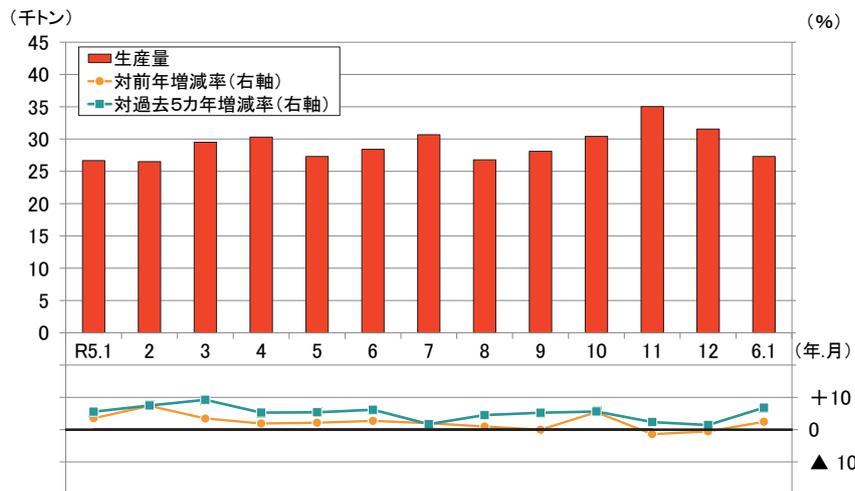
生産量

令和6年1月の牛肉生産量は、2万7314トン（前年同月比2.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万3013トン（同8.5%増）と前年同月をかなりの程度上回った一方、交雑種は

7305トン（同0.6%減）とわずかに、乳用種は6731トン（同3.2%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の1月の平均生産量との比較では、6.8%増とかなりの程度上回る結果となった。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

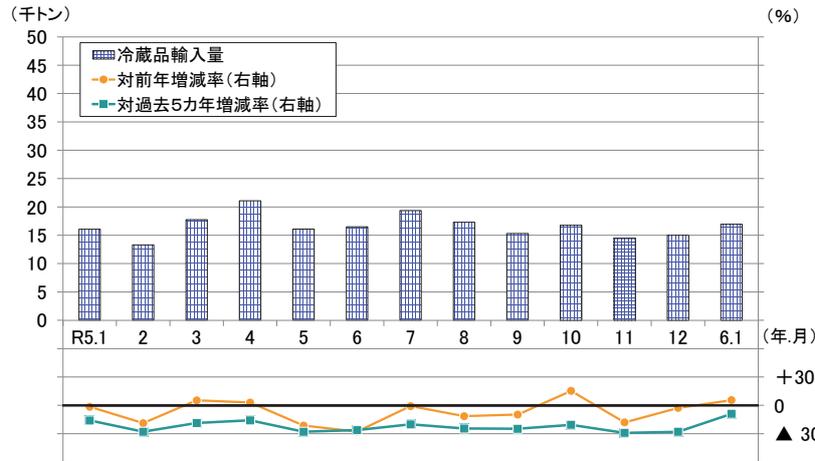
輸入量

1月の輸入量は、国内需要は低迷下にあるものの、生産量の増加に加え、入船遅れ分の通関により豪州産輸入量が増加したことなどから、冷蔵品は1万6951トン（前年同月比5.5%増）とやや、冷凍品は2万6274トン（同10.3%増）とかなりの程度、いずれも前年

同月を上回った（図2、3）。この結果、全体でも4万3264トン（同8.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

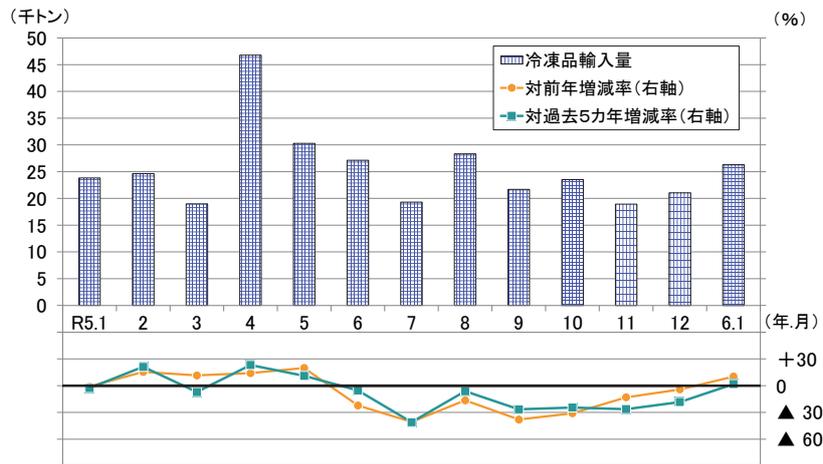
なお、過去5カ年の1月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は9.0%減とかなりの程度下回った一方、冷凍品は1.8%増とわずかに上回る結果となった。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

1月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）は156グラム（前年同月比7.6%減）と前年同月をかなりの程度下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の1月の平均消費量との比較では、13.9%減とかなり大きく下回る結果となった。

1月の外食産業全体の売上高は、元日に令和6年能登半島地震があり、一部で宴会のキャンセルや観光の自粛が見られたが、主と

して人口の多い地域がけん引し、年末から引き続き外食需要はおおむね堅調、訪日外国人のインバウンド需要も都市部や人気の観光地を中心に好調で、前年同月比9.6%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファーストフードの洋風は、価格改定による客単価上昇に加え、キャンペーンによる効果もあり、同8.1%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファーストフー

ドの和風も、テレビコマーシャルによる販促効果もあり、季節メニューなどが好調で、同13.3%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、食べ放題の店舗が引き続き好調、また一部店舗では観光地のインバウンド需要が伸び、同9.7%増と前年同月をかなりの程度上回った。

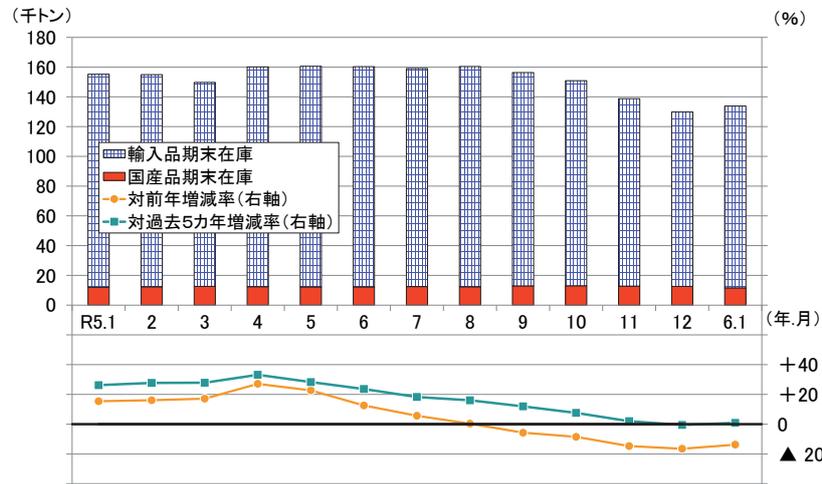
推定期末在庫・推定出回り量

1月の推定期末在庫は、13万3856トン

(前年同月比13.8%減)と前年同月をかなり大きく下回った(図4)。このうち、輸入品は12万2238トン(同14.7%減)と前年同月をかなり大きく下回った。

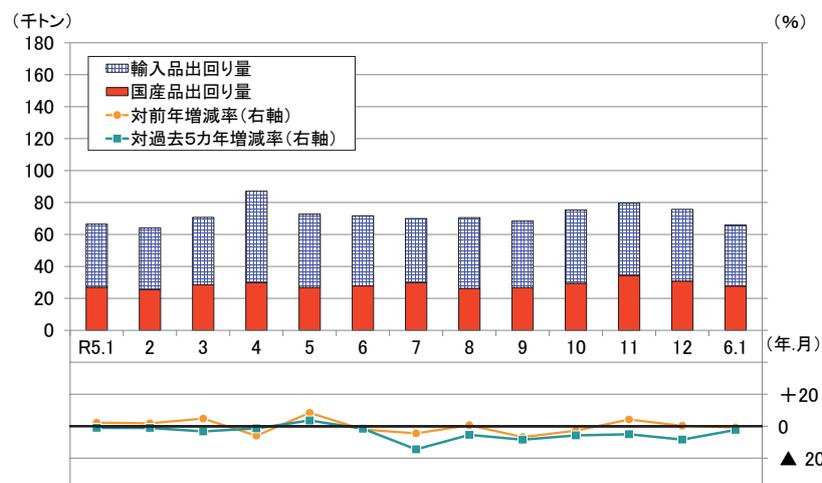
推定出回り量は、6万5945トン(同0.8%減)と前年同月をわずかに下回った(図5)。このうち、国産品は2万7712トン(同2.8%増)と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は3万8233トン(同3.3%減)と前年同月をやや下回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大内田 一弘)

豚 肉

6年1月の豚肉生産量、前年同月比3.7%増

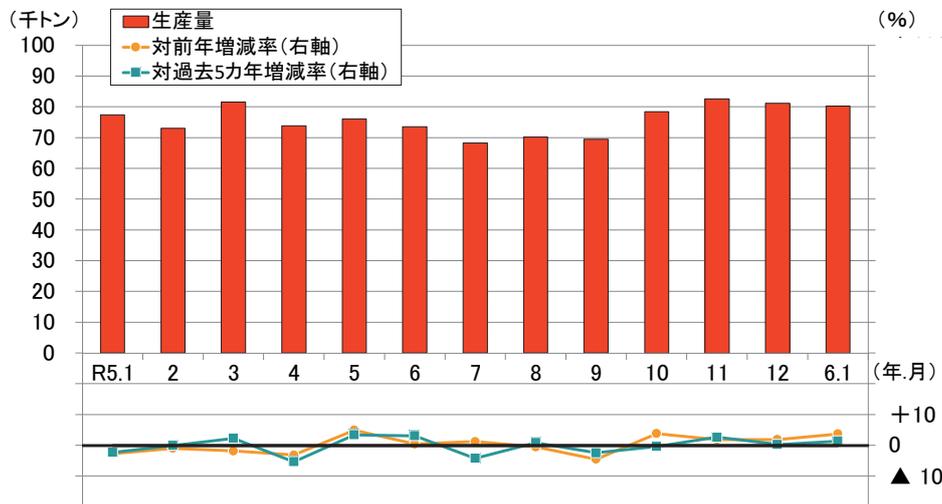
生産量

令和6年1月の豚肉生産量は、8万283トン（前年同月比3.7%増）と前年同月を

やや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の1月の平均生産量との比較でも、1.3%増とわずかに上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

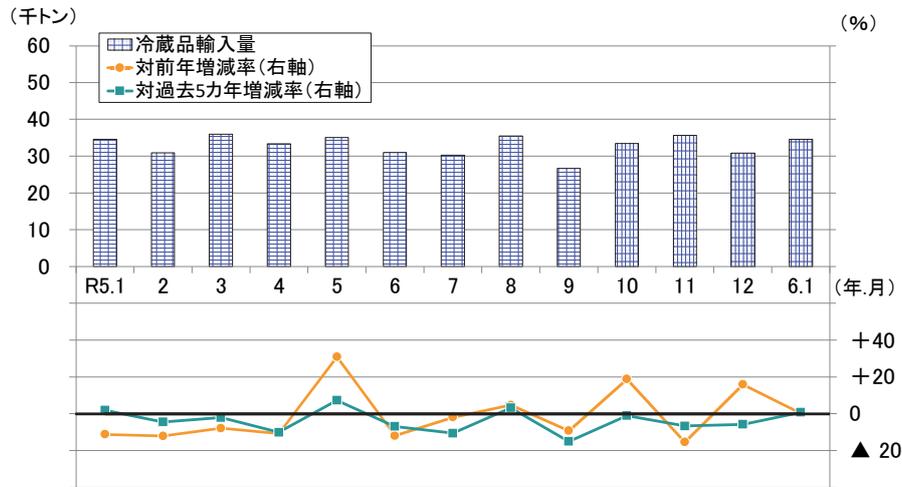
輸入量

1月の輸入量は、冷蔵品は、カナダ産とメキシコ産は増加したものの、米国产が減少したことから、全体では、3万4643トン（前年同月比0.3%増）と前年同月並みとなった（図2）。冷凍品は、紅海周辺の情勢悪化による物流の混乱などにより、欧州産の輸入量が減少したことなどから、3万7403トン（同

7.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。この結果、全体では7万2051トン（同3.7%減）と前年同月をやや下回った。

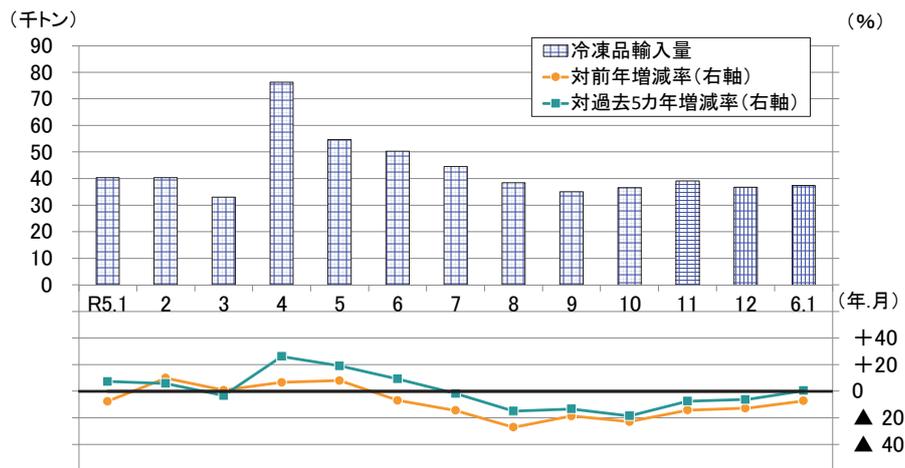
なお、過去5カ年の1月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は0.7%増、冷凍品は0.5%増と、ともにわずかに上回る結果となった。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

1月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）は、631グラム（前年同月比2.3%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の1月の平均消費量との比較でも、1.3%減とわずかに下回る結果となった。

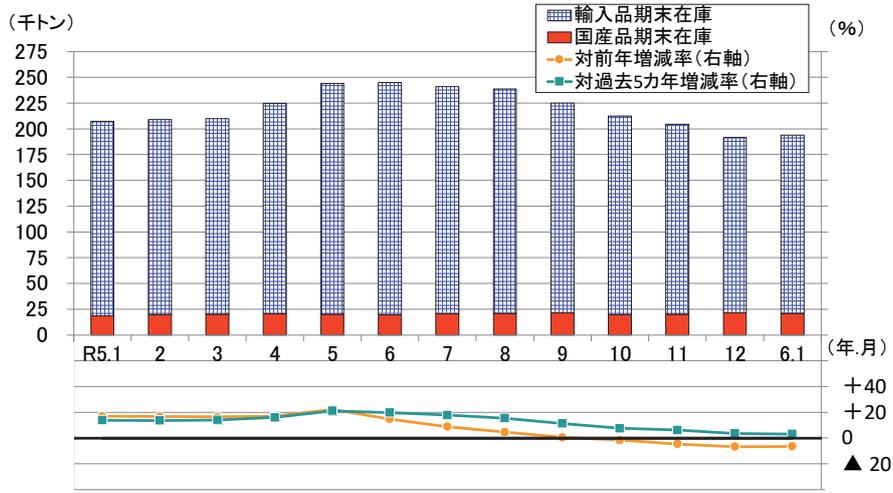
推定期末在庫・推定出回り量

1月の推定期末在庫は、19万4008トン

（前年同月比6.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図4）。このうち、輸入品は、17万3172トン（同8.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

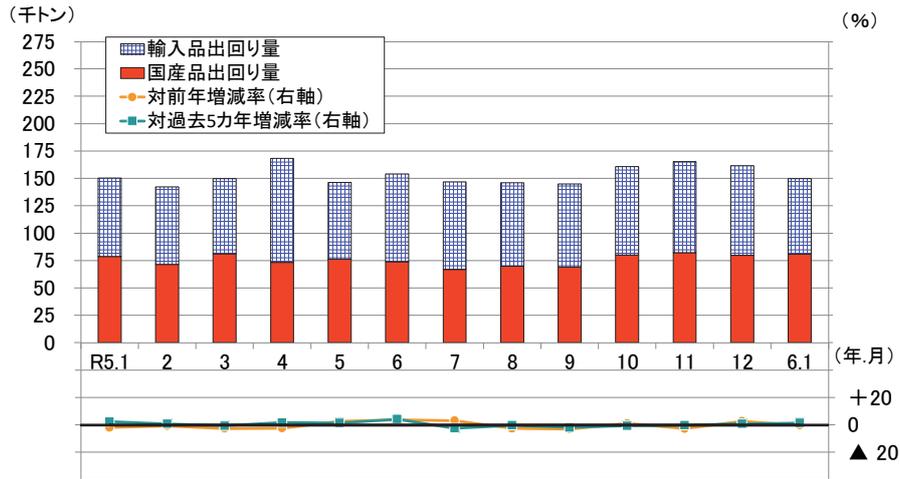
推定出回り量は、14万9746トン（同0.3%減）と前年同月並みとなった（図5）。このうち、国産品は8万748トン（同2.7%増）と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は6万8999トン（同3.6%減）と前年同月をやや下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

鶏肉

6年1月の鶏肉生産量、前年同月比2.1%増

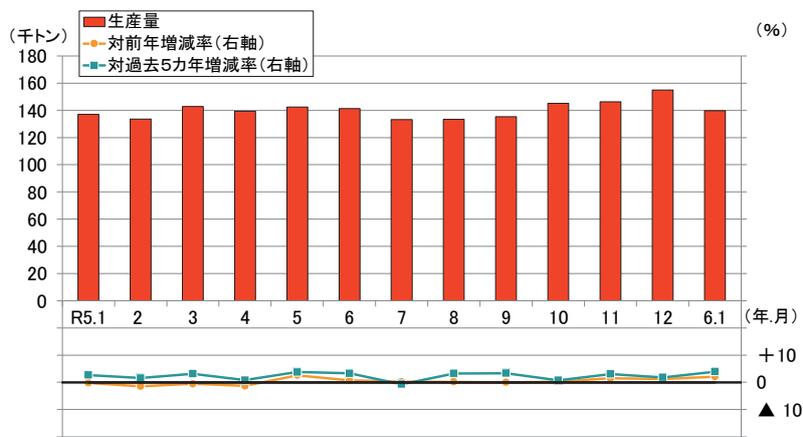
生産量

令和6年1月の鶏肉生産量は、13万9884トン（前年同月比2.1%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の1月の平均生産量との比較でも、3.9%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

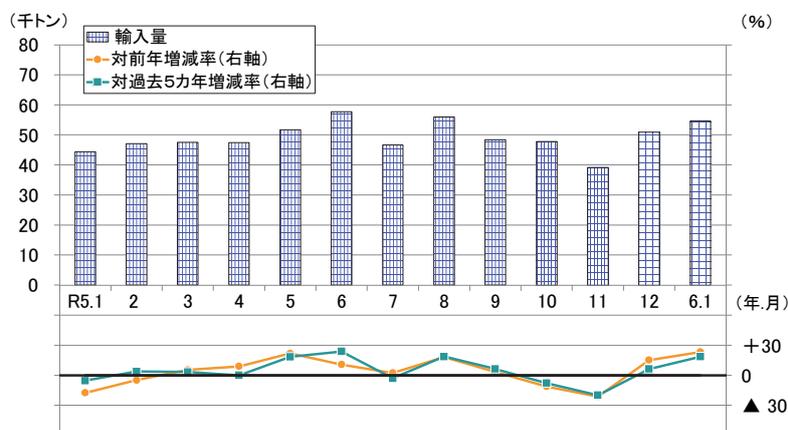
輸入量

1月の輸入量は、ブラジル産については同国において発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響からの回復などに加え、タイ産への引き合いも増えていることにより、

輸入量が増加したことなどから、5万4687トン（前年同月比23.3%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。

なお、過去5カ年の1月の平均輸入量との比較でも、18.5%増と大幅に上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

1月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)は、519グラム(前年同月比1.0%増)と前年同月をわずかに上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の1月の平均消費量との比較でも、2.8%増とわずかに上回る結果となった。

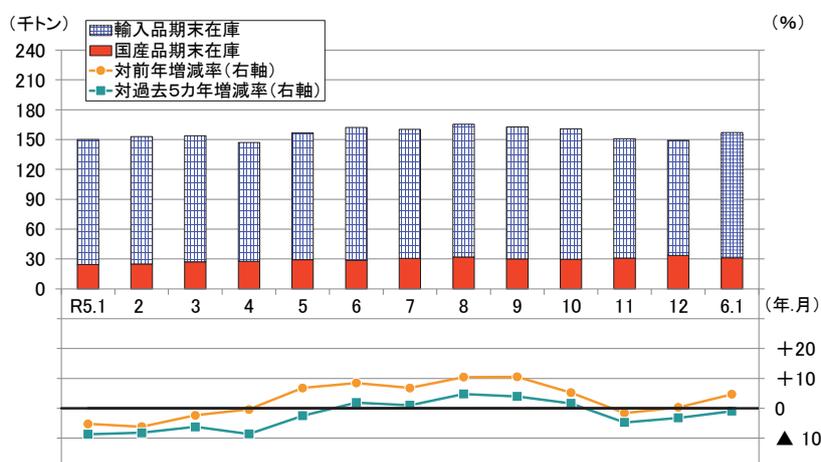
推定期末在庫・推定出回り量

1月の推定期末在庫は、15万7029トン(前

年同月比4.7%増)と前年同月をやや上回った(図3)。このうち、輸入品は12万5877トン(同0.2%増)と前年同月並みとなった。

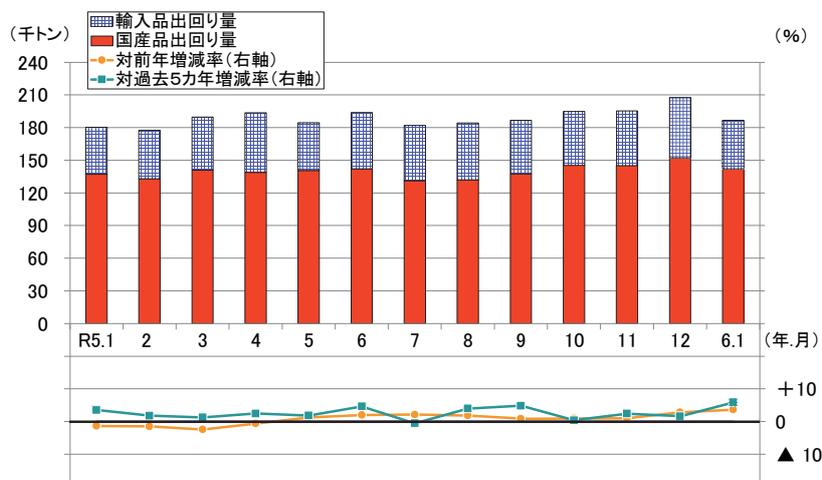
推定出回り量は、18万6753トン(同3.7%増)と前年同月をやや上回った(図4)。このうち、国産品は14万2283トン(同3.7%増)、輸入品は4万4470トン(同3.5%増)と、ともに前年同月をやや上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 田中 美宇)

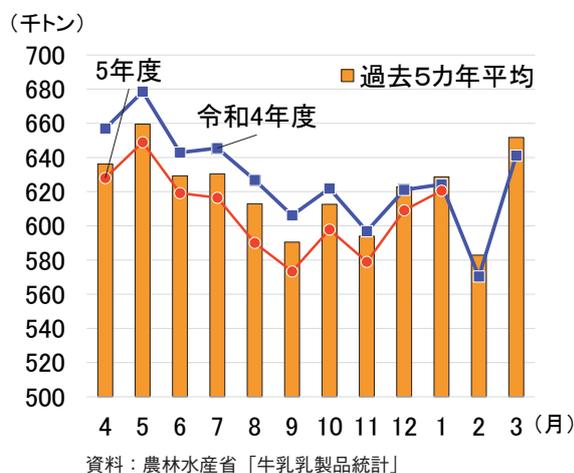
牛乳・乳製品

6年1月の生乳生産量、前年同月比0.6%減

1月の北海道の生乳生産量、17カ月ぶりに前年同月を上回る

令和6年1月の生乳生産量は、62万575トン（前年同月比0.6%減）と前年同月をわずかに下回り、18カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別に見ると、北海道は35万1671トン（同0.6%増）と17カ月ぶりに前年同月を上回った。都府県は26万8904トン（同2.1%減）と18カ月連続で前年同月を下回った。

図1 生乳生産量の推移



1月の生乳処理量を見ても、牛乳等向けは、30万9733トン（同1.5%減）と前年同月をわずかに下回った。このうち、業務用向けについては、2万3372トン（同5.0%減）と前年同月をやや下回った。

乳製品向けは、30万6425トン（同0.2%

増）と18カ月ぶりに前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、5万8443トン（同2.2%増）と前年同月をわずかに上回り、チーズ向けは、3万9199トン（同3.3%減）と前年同月をやや下回った。脱脂粉乳・バター等向けは、16万5496トン（同0.5%増）と前年同月をわずかに上回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

1月の牛乳等の生産量を見ると、飲用牛乳等のうち、牛乳は24万9803キロリットル（同0.3%減）と前年同月並みとなった。成分調整牛乳は1万8019キロリットル（同9.6%減）と前年同月をかなりの程度下回り、加工乳は、1万2230キロリットル（同0.6%減）と前年同月をわずかに下回った。

乳製品のうち、クリームは9894トン（同2.7%増）と4カ月ぶりに前年同月を上回った。

1月末のバター在庫量、前年同月比29.0%減

1月のバターの生産量は、6941トン（前年同月比1.6%減）と前年同月をわずかに下回った（図2）。出回り量は5776トン（同16.7%減）と前年同月を大幅に下回った（農畜産業振興機構調べ）。1月末の在庫量は、2万2672トン（同29.0%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移

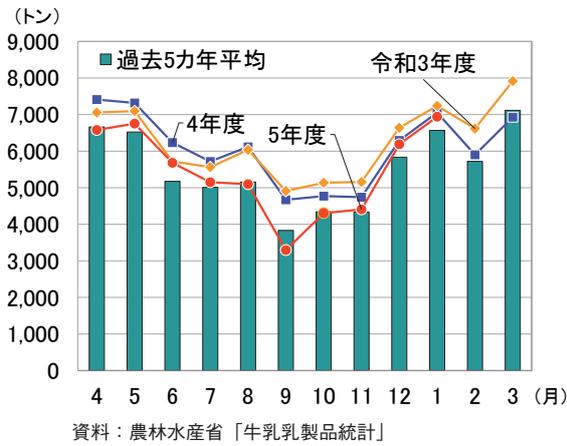


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

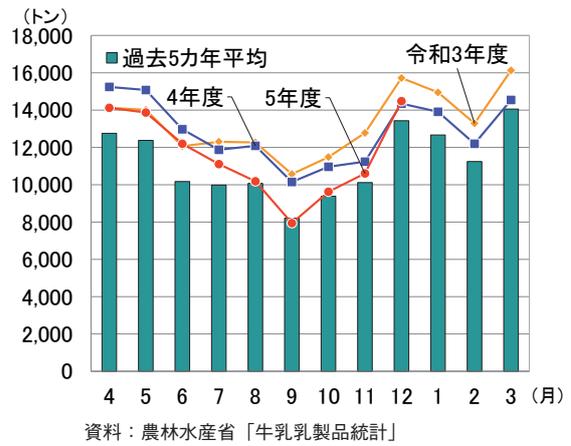


図3 バターの在庫量の推移

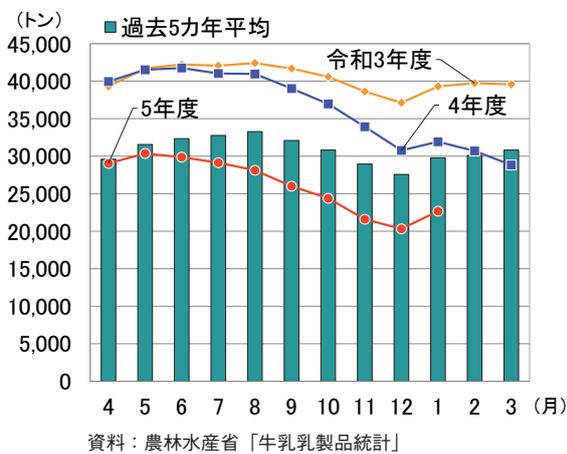
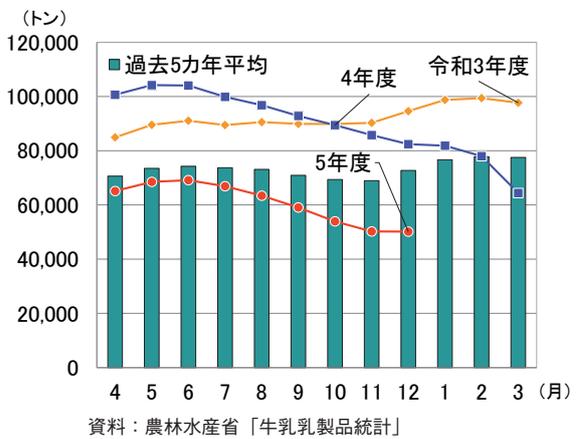


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



1月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比36.0%減

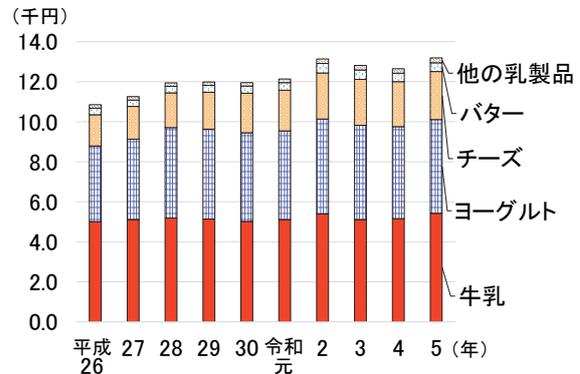
1月の脱脂粉乳の生産量は、1万4206トン（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図4）。出回り量は1万2174トン（同15.9%減）と前年同月をかなり大きく下回った（農畜産業振興機構調べ）。1月末の在庫量は、5万2380トン（同36.0%減）と前年同月を大幅に下回った（図5）。

令和5年の1人当たり牛乳・乳製品支出金額、3年ぶりに前年を上回る

総務省が令和6年2月に公表した家計調査によると、5年（1～12月）の全国1人当たりの牛乳・乳製品の支出金額は1万3479円（前年比4.5%増）と前年を3年ぶりに上回った（図6）。これは、複数回にわたる乳価改定に伴う製品の値上げの影響が大きいと考えられる。

内訳を見ると、牛乳が5423円（同5.2%増）と前年をやや上回り、バターが437円（同2.4%増）、ヨーグルトが4683円（同1.9%増）と、ともに前年をわずかに上回った。チーズは2401円（同6.8%増）と前年をかなりの程度上回った。

図6 牛乳・乳製品の支出金額（全国1人当たり）の推移



資料：総務省「家計調査」
 注1：1世帯（2人以上の世帯）当たりの数値を当該年の世帯人数で除して算出。
 注2：消費税を含む。
 注3：贈答用など自家消費以外のものを含む。

（酪農乳業部 高橋 沙織）

鶏卵

2月の鶏卵卸売価格は190円

令和6年2月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、1キログラム当たり190円（前年同月差137円安、前年同月比41.9%安）と、2カ月連続で前年同月を大幅に下回った（図）。

卸売価格は、例年、年明けに下落し春先に向けて再び上昇する傾向がある。年末の需要期を過ぎたことで1月は価格動向に落ち着きが見られたが、2月の日ごとの価格推移を見ると、月初の同180円から27日には同205円となり、月内で25円の上昇となった。

このような中、一般社団法人日本養鶏協会は、発動中であった成鶏更新・空舎延長事業^(注)に関して6年2月27日の鶏卵の標準取引価格（日ごと）が、安定基準価格（同190円）を上回る同197円になったことから、前日

の同月26日をもって同事業の対象となる成鶏の出荷期間が終了したことを発表した。

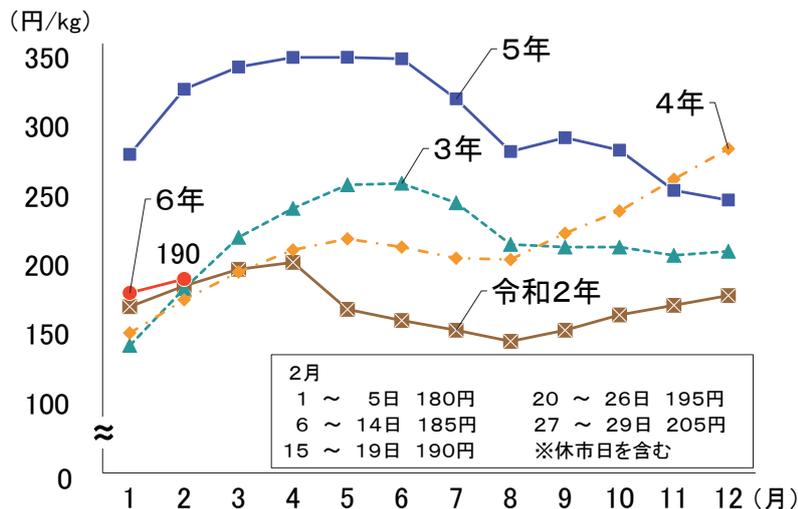
供給面は、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生農場における再導入が進んだことから順調な出荷が続き、生産地の一部では生産調整の動きもあるとみられるが、今後の安定した供給が期待される。

需要面では、物価上昇による値上げの影響があるものの、引き続き好調なインバウンド需要や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の5類感染症移行後、初めての入学、就職などで人流が活発化する春を迎えることから、歓送迎会や積極的な外出、旅行などに伴う外食需要による消費拡大に期待したい。

(注) 鶏卵生産者経営安定対策事業の一つであり、一般社団法人日本養鶏協会が実施する事業。同事業は、鶏卵の標準取引価格(日ごと)が安定基準価格を下回った日の30日(10万羽未満の生産者は40日)前から標準取引価格(日ごと)が安定基準価格を上

回る日の前日までに、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舍期間を設けた生産者に対して奨励金を交付するものである。

図 鶏卵卸売価格(東京、M玉)の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

(畜産振興部 生駒 千賀子)

令和5年の畜産物の輸出動向について

令和5年の農林水産物・食品の輸出については、下半期はALPS処理水放出に伴い、中国などによる輸入規制はあったが、アフターコロナ下で、世界的に人々が外出して飲食する機会が増えたことに加え、円安が追い風となったことで、過去最高となる1兆4547億円(前年比2.9%増)に達した。そのうち畜産物は1008億2600万円(同4.1%増)となったところであるが、その畜種別の輸出動向を紹介する。

【牛肉】牛肉輸出量、前年比13.0%増

令和5年の牛肉輸出量(牛くず肉を除く。以下同じ)は、8421トン(前年比13.0%

増)とかなり大きく増加した(図1)。これは、主要輸出先向けの輸出量が増加する中、特に台湾、香港での外食需要の回復によるものとみられる。

また、同年の輸出先は45カ国・地域となった。国・地域別のシェアを見ると、台湾向けが20%となり、前年にトップだった香港を上回った。次いで香港が18%、米国が14%となった。

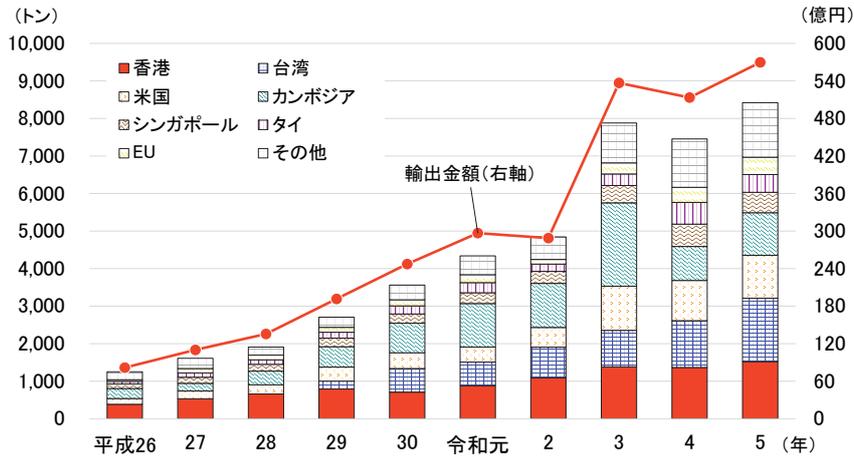
5年の輸出金額は、569億7674万円(前年比11.0%増)と前年からかなり大きく増加し、過去最高となった。

また、同年の牛肉輸出量の部位別割合を見ると、全体に占める「ロイン」の割合が

53%と最も高く、次いで「かた・うで・もも」が30%、「ばら」が14%となった(図2)。なお、北米やEU向けはサーロインなどのロ

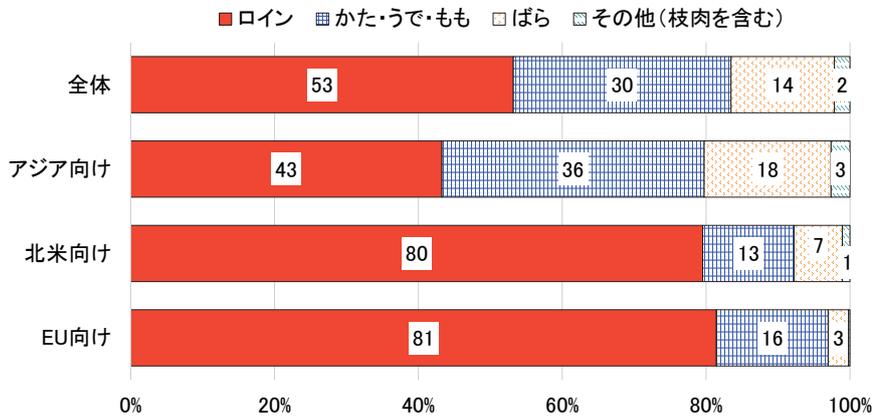
インを中心とした輸出となっている一方、アジア向けはフルセットでの輸出が比較的多く、この傾向に変化は見られない。

図1 牛肉輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、0201、0202。

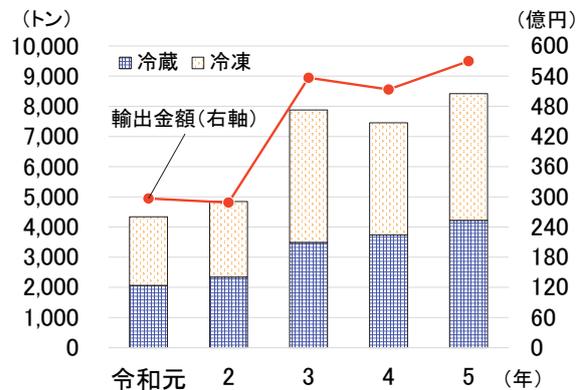
図2 牛肉輸出量の部位別割合 (令和5年)



資料：財務省「貿易統計」
注1：統計品目番号は、0201、0202。
注2：端数処理の関係から内訳の合計が100%にならない場合がある。

5年の冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量を見ると、冷蔵は4222トン（前年比13.0%増）、冷凍は4199トン（同13.0%増）と、ともに前年からかなり大きく増加した（図3）。全体に占める「冷蔵」と「冷凍」の割合は前年同の50%：50%となった。輸出量のうち、アジア向けは冷凍品の割合が高いのに対し、北米およびEU向けは冷蔵品の割合が高くなっている。

図3 冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、0201、0202。

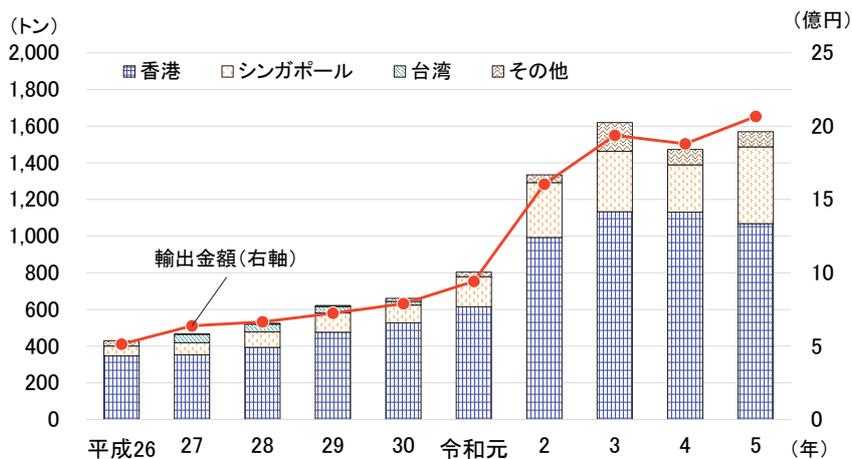
【豚肉】豚肉輸出量、前年比6.6%増

令和5年の豚肉輸出量（豚くず肉を除く。以下同じ）は、1570トン（前年比6.6%増）と前年からかなりの程度増加し、同年の輸出先は9カ国・地域となった（図4）。増加した背景には、香港、シンガポールでの安定し

た需要があるとみられ、国・地域別シェアでは、香港向けが68%と最も多く、次いでシンガポール向けが27%となった。

5年の輸出金額は、20億6673万円（前年比10.0%増）と前年からかなりの程度増加した。

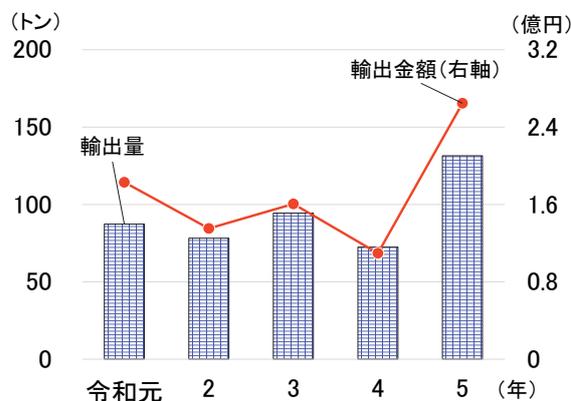
図4 豚肉輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、0203。

また、ソーセージやハムなどを含む豚肉加工品（豚肉調製品（ゆでた豚足など）を除く。以下同じ）の5年の輸出量は132トン（同81.6%増）と前年から大幅に増加した（図5）。

図5 豚肉加工品輸出量・輸出金額の推移（豚肉調製品を除く）



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、021011、021012、021019、1601、160241、160242。

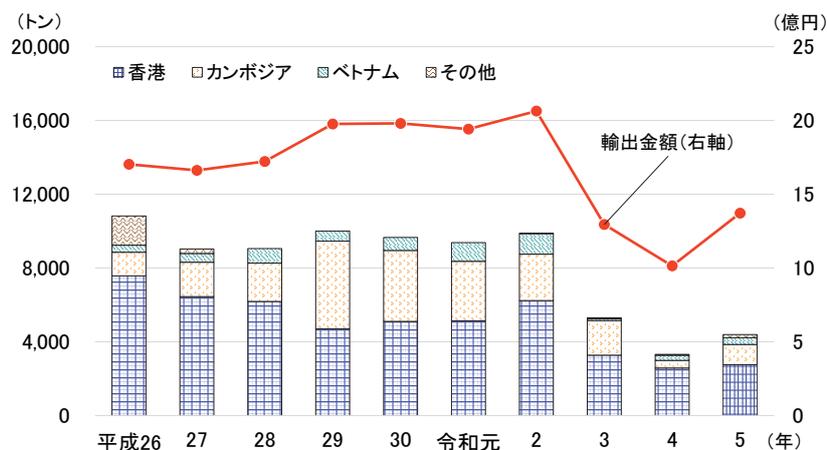
【鶏肉】鶏肉輸出量、前年比32.3%増

令和5年の鶏肉輸出量は、日本国内での高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という）の発生による輸出停止の影響は見られたものの、香港での需要の拡大などから、4390トン（前年比32.3%増）と前年から大

幅に増加した（図6）。同年の輸出先は、前年と同数の5カ国・地域となった。国・地域別に見ると、シェアは香港向けが63%と最も多く、次いでカンボジア向けが25%となった。

なお、輸出金額も、13億7206万円（前年比35.2%増）と前年から大幅に増加した。

図6 鶏肉輸出量・輸出金額の推移

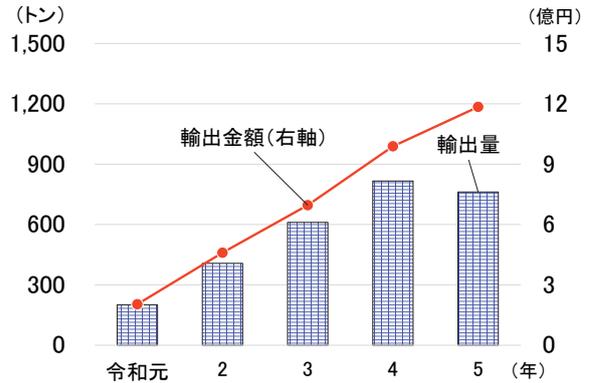


資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、0207。

一方で、空揚げやサラダチキンといった鶏肉加工品の輸出量は、762トン（同6.7%減）と前年からかなりの程度減少した（図7）。国・地域別では、香港向けの割合が97%となった。

なお、輸出金額は、11億8468万円（前年比19.8%増）と前年から大幅に増加した。

図7 鶏肉加工品輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号は、160232。

【牛乳・乳製品】牛乳・乳製品輸出金額、前年比3.6%減

令和5年の牛乳・乳製品の輸出金額は307億8856万円（前年比3.6%減）と前年をやや下回った（図8）。これは、主に脱脂粉乳の国際価格が下落し、日本産の価格が不利になったことなどが一因であるとみられる。

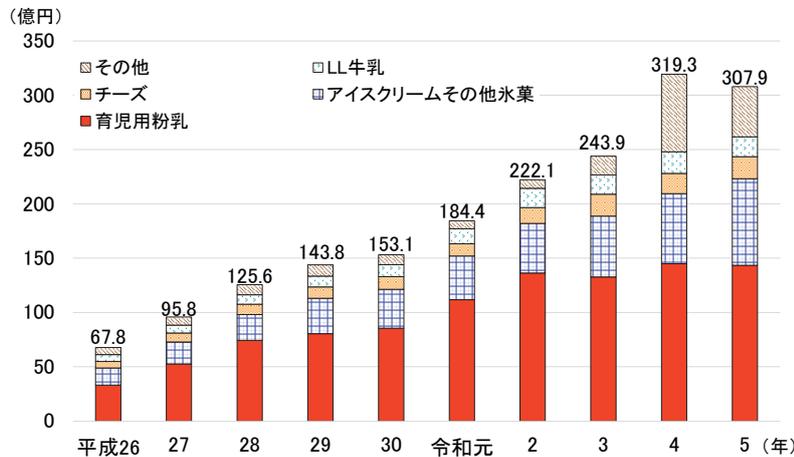
品目別に見ると、最も輸出金額の多い育児用粉乳が143億4358万円（同1.0%減）、次いで、アイスクリームその他氷菓が79億6631万円（同23.5%増）、チーズが20億

2909万円（同8.8%増）、LL牛乳が18億2477万円（同8.0%減）となった。

輸出先別に見ると、輸出金額の多い順に、育児用粉乳についてはベトナム、台湾、カンボジア、アイスクリームその他氷菓は台湾、香港、中国、チーズは台湾、ベトナム、香港、LL牛乳は香港、シンガポール、台湾となっている。

その他については粉乳類の輸出量が最も多く、輸出先別に見ると、輸出金額の多い順にフィリピン、次いでシンガポールとなっている。

図8 牛乳・乳製品の輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注1：輸出金額は、牛乳・乳製品の合計量。
注2：統計品目番号は、0401～0406、1901.10-000、2105.00-000、3501。

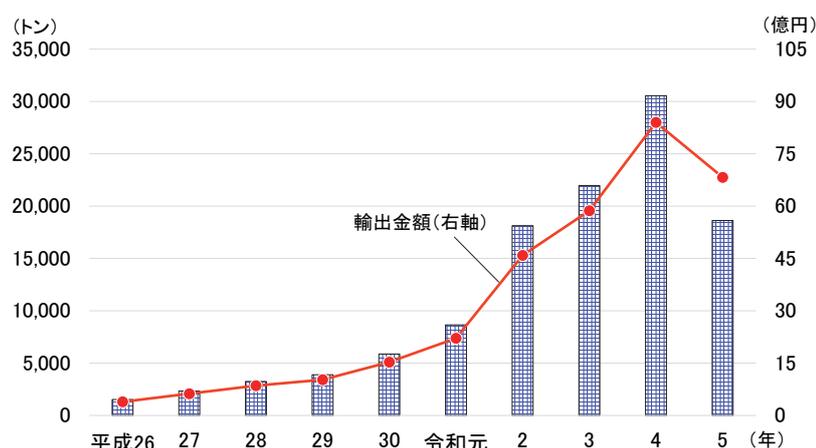
【鶏卵】 鶏卵輸出量、前年比39.0%減

令和5年の鶏卵（殻付き卵）の輸出量は1万8622トン（前年比39.0%減）と前年

から大幅に減少した（図9）。

なお、輸出金額も68億2399万円（同18.8%減）と前年から大幅に減少した。

図9 鶏卵（殻付き卵）輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注1：数値は殻付き卵（食用）。
注2：統計品目番号は、040721、040729、040790。

輸出量を輸出先別に見ると、鶏卵の総輸出量の98%を占める香港向けが1万8334トン（前年比1.6%減）とわずかに、次いでシンガポール向けが248トン（同27.0%減）と大幅に、いずれも前年を下回った。

国内でのHPAIの発生による輸出停止や国内需給のひっ迫、輸出先での需要の低下などにより減少したものとみられる。

（食肉、鶏卵：畜産振興部 大西 未来、牛乳・乳製品：酪農乳業部 高橋 沙織）